

目録ノ修正ヲ爲ス

一ノ之部第

燈明基建築并諸標的設置書類

目録

第壹號

一 神奈川県知事ヨリ薩州佐多郡へ燈明基建築必用器械英軍艦ニテ回送其文ノ有無問合ノ未翰

第貳號

一同知事へ前件公用ニテ回送ハ許可アルヘキ旨ノ回答往翰

外務省

第三號

一 辨官へ前件許可アリ度旨ノ具申書

第四號

一 神奈川県へ英軍艦ニテ器械回レ方差留ノ往翰

第五號

一 燈明基掛ヨリ豆州神子元島へ燈臺必用品佛那ニテ回送方ノ未翰

第六號

一 辨官へ前件許可アリ度旨ノ具申書并附箋指令

第七號

一土木司ヨリ品海砲臺へ燈明臺建築ノ為佛人出張
旅宿其他ノ件ニ照會ノ来翰

第八號

一東京運上所ヨリ前件佛人旅宿其他取計向承諾ノ
来翰但往翰
脱ス

第九號

一土木司令史ヨリ佛人出張中取扱向報知承諾ノ来
翰但往翰
脱ス

第十號

一民部省へ各所燈明臺諸入費取調回送方ノ照會書

外務省

第十一號

一於美公使館寺島大浦同公使へ各所燈明臺収税ノ
應接記抄萃

第十二號

一前同所大神神奈川縣知事美公使ト横濱燈明臺落
成入費ノ應接記

第十三號

一燈明臺掛へ是迄建築成取ノ燈明臺敷并ケ所費用
等巨細取調回送方照會ノ往翰

第十四號

一於近邊籍澤卿大藏大補氏部大補ヲ補英公使ト燈 明臺掛バリ一解雇ノ應接記	第拾五號	一神奈川縣ヨリ己年正月ヨリ午年七月迄ノ燈明臺 諸入費按草回送ノ来翰 附屬別紙 一燈臺諸入費	第拾六號	一於英公使館大補同公使へ燈明臺掛リ雇入口ツセ ル死去家族養育金ノ應接按草	外務省	第拾七號	一英公使ヨリ燈明臺掛雇英人口ツセルノ代人并三 等職人雇入方ノ来翰	第拾八號	一向公使ヨリ同所口ツセルノ家族へ養育金ヲ乞フ 旨ノ来翰	第拾九號	一民部大サ補へ口ツセル家族へ手當金渡方照會ノ 往翰	第壹拾號
----------------------------------------	------	--------------------------------------------------------	------	-----------------------------------------	-----	------	-------------------------------------	------	--------------------------------	------	------------------------------	------

一 同大サ肺ヨリロツセル家族へ手當金渡方承諾ノ 来翰	第貳拾壹番	一 英公使へ燈明臺附雇職人口フセルノ家族へ手當 金差贈方ノ往翰	第貳拾貳番	一 同公使ヨリ燈明臺職人備附方擧依頼ノ書翰ヲ 請フ旨ノ来翰	第貳拾三番	一 民部省へ前件英公使へノ返翰案照會ノ往翰	外務省	附屬別紙	一 英公使へノ書翰案	第貳拾四番	一 燈明臺掛リヨリ各所燈明臺入費高調方遲延ノ辨 解書翰	第貳拾五番	一 民部省へ燈明臺掛リへ三等職人備入方英公使へ 依頼ノ返翰案回答催促ノ往翰	第貳拾六番	一 同省ヨリ前件返翰案異議ナキ旨ノ来翰
-------------------------------	-------	------------------------------------	-------	----------------------------------	-------	-----------------------	-----	------	------------	-------	--------------------------------	-------	------------------------------------------	-------	---------------------

第貳拾七號

一 橫須賀製鉄所ヨリ同所取扱ニテ建築ノ燈明臺諸
入費調書回送ノ未翰

附屬別紙

一 房州野島ヶ崎外三ヶ所燈明臺諸入費書

第貳拾八號

一 神奈川縣ヨリ橫須賀製鉄所取扱ニテ設置ノ諸標
的入費并燈明臺調書回送ノ未翰

附屬別紙

一 晴礁瀬標并燈明臺諸入費書

外務省

第貳拾九號

一 燈明臺掛へ各所燈明臺費用取調送致方再應ノ往翰

第三拾號

一 民部省へ燈明臺三等職人傭入方英公使へノ返翰
案異存ノ有無催促ノ往翰

第三拾壹號

一 同省ヨリ前件ハ既ニ回答及ヒレ旨ノ未翰

第三拾貳號

一 英公使へ燈明臺建築ノ為三等職人傭入方周旋依
頼ノ返翰

第三拾三號

一 燈明臺檄ヨリ各所燈明臺諸入費調方遲延辨解ノ来翰

第三拾四號

一 於美公使館卿大補英公使へ城ヶ島燈明臺燈光ノ

應接記

第三拾五號

一 民部大サ補へ燈明臺雇口ツセル調落ノ給料渡方

ノ往翰

第三拾六號

一 神奈川縣へ觀音崎并城ヶ島兩所ノ燈臺燈光訊問

ノ往翰

外務省

第三拾七號

一 辨官ヨリ松前岬へ燈明臺建築方露公使申五レ旨

ニテ開拓使来書回送ノ来翰

附屬別紙

一 北海道開拓使ヨリ辨官へ上申書

第三拾八號

一 同官へ露國領事松前岬燈明臺建築方ノ答辨書

第三拾九號

一 燈明臺檄ヨリ同局雇ワラントン并燈明番人三名

約定書回送ノ未翰

第四拾號

一同局ヨリ前件送致方催促ノ未翰

第四拾壹號

一同局へ前件燈明番人雇入約定書回送ノ未翰 但約定書横文

第四拾貳號

一於本省郷大隈参議英公使代へ燈明臺附外國人雇入規則ノ應接記

第四拾三號

一大蔵省へ燈明臺掛ブランドン附屬ノ者解雇古代

外務省

リ雇入方ノ照會往會

第四拾四號

一於英公使館大浦同公使トロツセル調落ノ給料渡方ノ應接記核萃

第四拾五號

一民部大浦へロツセル調落ノ給料渡方催促ノ往翰

第四拾六號

一同大浦ヨリ前件ノ回答未翰

第四拾七號

一同大サ浦ヨリロツセル給料手當并妻子帰國旅費

共フラントンへ渡済報知ノ来翰	第四拾八號	一同大サ浦へロツセル調落給料渡方再應照會ノ往翰	第四拾九號	一同大サ浦ヨリ前件給料渡方横濱へ通知及々置レ旨ノ回答来翰	第五拾號	一同大浦ヨリ同断給料フラントンへ渡済報知ノ来翰	附屬別紙	一燈明臺掛ヨリ民部省迄ノ書翰	一洋銀受取證書	第五拾壹號	一燈明臺掛へ豆州神子元島紀州大島隅州佐多岬へ建築ノ諸入費其外取調回送方ノ往翰	第五拾貳號	一神奈川縣ヨリ城ヶ島燈明臺燈光換色決定報知ノ来翰	附屬別紙
----------------	-------	-------------------------	-------	------------------------------	------	-------------------------	------	----------------	---------	-------	----------------------------------------	-------	--------------------------	------

外務省

一横須賀製鉄所ヨリ神奈川縣元ノ書翰

第五拾三號

一同縣へ前件換色ノ布告スへキ旨ノ往翰

第五拾四號

一工部省ヨリ燈明臺約定書其外書類共回送方ノ未

翰

第五拾五號

一同省へ前件回答往翰

外務省

0305

3-2186

馬

解

春

馬

春

春

馬

春

今般薩何候多岬の地は其の地は百丈

右必用鉄隊當鎧之類至急是邊

此は江國地西南極隅に在る事之故使

是處より往く去ては其の地は極遠方極

是より往く去ては其の地は極遠方極

英軍艦隊の届方較り容易より有るは上

其の地は極遠方極

其の地は極遠方極

3-2186

0306

万子下子

馬濟 師 壽

馬 町 大 馬 橋 橋 橋 橋 橋

大 府 藩 縣

合

今般薩何信由岬の地は高島江百丈

右必用鉄隊當銘の船至急是道

然に其國地西南極隅に年取事之不便

是處より往く去ては是處より往くは難

是より往くは是より往くは難

英軍艦便より届方較り容易より有るは

其官銀の内を人々を往く船を渡す

燈の基掛より往くは日毎に中より

3-2186

0307

此後永平港船隻之出入及交易之有無

一應及出官合出官者或至急近報知可也

以後中入也

四月

王神志川様

權知事

大参事

外務省

大少丞

西中

乙卯年

W. A. P. M. A. K. A.

書

寫濟

桂金
桂少金
桂少金

府藩縣名

今最清冽位多神位如來也取善者

右心用之注釋者德之衆也意之運也

言に担事方は福を授け、後、世に世に世に

禮批し、言に九史書方、其、河合、和、世、

年、右、國、皇、言、之、注、世、世、世、世、

後、世、世、世、世、世、世、世、世、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

五和事、

桂金、

大和、

為、中、書、末、末、末、末、末、末、末、末、

南、控、揚、後、後、後、後、後、後、後、後、

十、七、何、地、地、地、地、

多幸多吉

〆

〆

寫濟

〆

〆

〆

川巻縣各々

合衆國列位紳士

右の如く

〆

〆

〆

〆

〆

五郎

〆

〆

〆

〆

〆

長官トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
又 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ
官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ 官人トシ

馬濟

馬濟

馬濟

馬濟

馬濟

馬濟

別我神志... 國... 事... 馬濟

馬濟... 馬濟... 馬濟... 馬濟

附... 白... 受付... 布告

別我... 神志... 馬濟

乙用、以紅石其以俾
於... 何... 可...
... 了



舞官

別代神多、其、...

不用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

用... 用...

3-2186



不其以保年
何之可保

新
科

大
神

大
神
御
印
御
印
御
印

大
神

拜官
可務者

別代神多ク其ノ主令ニ越スル
不問修場ノ因由由一以爲之
用ニシテ其ノ事ニ依リテ其ノ
事用ニ據ル一乃チ其ノ我ノ
如ク其ノ事ニ依リテ其ノ事

之ノ事益々其ノ事ニ依リテ其ノ事
在ニシテ其ノ事ニ依リテ其ノ事
其ノ事ニ依リテ其ノ事ニ依リテ其ノ事
其ノ事ニ依リテ其ノ事ニ依リテ其ノ事
其ノ事ニ依リテ其ノ事ニ依リテ其ノ事

可
務
者

乙日九

神皇正統記

卷之

馬場

神皇正統記

中

卷之

神皇正統記卷之... 皇極經世一書... 皇極經世一書... 皇極經世一書...

皇極經世一書... 皇極經世一書... 皇極經世一書... 皇極經世一書...

3-2186

0315

三好宗久

幸

神多乃

乃壽者

已到何處... 此燈... 亦年... 未竟...

由... 下... 首... 乃... 乃...

三月朔

三月廿

山一海

區之海

解重日向五海以皆平良多拔神者有也
区之海

寫齊

區之神子元始佐始以國地也
區之海也且按所海之境也其先
カラス也其先也其先也其先也
其先也其先也其先也其先也

其先也其先也其先也其先也
其先也其先也其先也其先也
其先也其先也其先也其先也
其先也其先也其先也其先也
其先也其先也其先也其先也
其先也其先也其先也其先也

市園ノ事ヲ悉クテ其旨ヲ宣フ
同日ニテ其旨ヲ宣フ
其旨ヲ宣フ
其旨ヲ宣フ

三月朔

在候
堀田忠晴

外務省
出

但年言(向海
ニ言テ其旨ヲ宣フ
以テ其旨ヲ宣フ
其旨ヲ宣フ
其旨ヲ宣フ
其旨ヲ宣フ
其旨ヲ宣フ

同之通可居
許儀事



寫
濟

引致酒造部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長	同部長
--------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

3-2186

0320

号



寫濟

別我の通商手続の善の成りたるに
 関涉場を以て國に海航の美は高き
 なる日あり美の善の國人の善の
 場ありたるに官の善の成りたるに
 有る官の善の知りたるに善の成りたるに
 有る官の善の知りたるに善の成りたるに

外務省

官の善の知りたるに善の成りたるに
 有る官の善の知りたるに善の成りたるに

3-2186

0321

Handwritten text on a separate strip of paper at the top of the document.

Handwritten characters on the right edge of the document.

大輔

卿

大左

大右

復四位

權左

權右

果以沖武備... 今朔日... 當製... 建策方頭... 所...

外務省

地出... 信... 雁上... 合...

午三月

東京

外務省

土木司

三

卿
大輔

Handwritten text on a rectangular slip of paper, likely a draft or a specific document related to the main text.

Handwritten text on a vertical slip of paper, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text in vertical columns within a rectangular frame. The text is in cursive and includes characters such as 地, 出, 根, 出, 諸, 省, 同, 人, 業.

午三月

東京

外務省

土木司

3-2186

0323

三ノ目

信ノ書ニ上ル

野村舟守

元禄四年

在野村

是乃沖地甚多燈明甚多亦建寺之屋
佛入ノ口ニ地有寺ニ在常ノ日ニ用場
此道ニ有根取之向ノ寺ニ有寺ノ屋
寺者ノ屋ノ寺ニ有寺ノ屋
寺者ノ屋ノ寺ニ有寺ノ屋

東京運上所

付ノ元禄四年ノ寺ノ屋ノ寺ノ屋
寺ノ屋ノ寺ノ屋ノ寺ノ屋
寺ノ屋ノ寺ノ屋ノ寺ノ屋
寺ノ屋ノ寺ノ屋ノ寺ノ屋

三ノ目

寺ノ屋ノ寺ノ屋ノ寺ノ屋
寺ノ屋ノ寺ノ屋ノ寺ノ屋

口書傳人ハ口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口

口口口口口

三月廿

口口口口口口口口口口口口

外務省

口口口口口

三宅 臣 奉 行

外務省

馬濟

外

大正

大正

大正

大正

大正

外務省

奉天 遼寧 吉林 山東 河南 湖北 湖南 廣東 廣西 貴州 雲南 四川 陝西 甘肅 寧夏 綏遠 察哈爾 熱河 遼北 遼東 奉天 遼寧 吉林 山東 河南 湖北 湖南 廣東 廣西 貴州 雲南 四川 陝西 甘肅 寧夏 綏遠 察哈爾 熱河 遼北 遼東

庚午六月

外務省

外務省

外務省

外務省

此原書種係新
理之地并は圖地列
設件と題を以て
編入スル
編者附言

校合

五月十五日於英公使館寺濱外務大輔英公使

パークスに接記の内

多文於的竟把授交ハ先リ外に私甲に渡分
心机或は港利を以て甲乙丙之と不と續生
る内ハ右私分を不に授と交之に不不續生る内ハ
何と不に授と交之に不不續生る内ハ

第拾五册

此の竟把授交之に不に授と交之に不不續生る内ハ

是上ノ内此に不に授と交之に不不續生る内ハ
批合事之条約書に記如し此に
不不續生る内ハ

以は修復并沖けホ入費之り此に不不續生る内ハ
まハ送理に相と交之に不不續生る内ハ
此に不不續生る内ハ

生原公権侯爵遺稿
世尊公園地創後傳
上題を多載中編多

編者附言

校合

五月廿六日於吳公使館寺内外招き補井
全川外招き事吳公使ハックスの接記ハ

横濱表傳的の建軍の成ハ之點に於

ハ多量の輸入費を補之ハ為る事は假

と流費ハ之横濱を有る人ハ中守ハ不素の

事ハ後ハ之今ハ五子事ハ之今ハ

者ハ海ハ之今ハ活ハ之今ハ

草拾貳册

中守中守ハ之今ハ

井園

右今ハ之今ハ之今ハ之今ハ

活ハ之今ハ之今ハ之今ハ

活ハ之今ハ之今ハ之今ハ

及

六月六日

外務省
事務

高齊

青島の租界
外務省

是等租界は我が國の利益に
及ぶるものなるを以て

外務省は之を保護すべし
とすべし

外務省

六月六日
外務省

外務省

高野五郎

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

高野

外務省

高野

校令

生原五日貨物改修
関係書類中ニ編入

編者附言

庚午七月廿三日 招へて遠使 外務省の因が扱方大
大隈大元大輔 大木大元大輔 大井大元大輔 大角大元大輔 大
公使ハークスニを接記一付

昨の巻掛、パリーと考へて出向せられたる
ハブロントシヤカといふ名を以てし、
今三人の昨の巻掛を以てし、
國ハークス大元大輔ニを以てし、
今三人の昨の巻掛を以てし

葉拾四辨

吉井

昨の巻掛は、いふ名を以てし、
今三人の昨の巻掛を以てし

今三人の昨の巻掛を以てし、
今三人の昨の巻掛を以てし

今三人

今三人の昨の巻掛を以てし、
今三人の昨の巻掛を以てし

3-2186

0332

三人より減りて、不れぬ

勿論、条約同様のものがあるが、該公使は、

核りぬ

此の老いたるおまふも、沖津川、

水に落ち、おまふも、おまふも、おまふも、

3-2186

0333

校了

庚午八月四日

外務省

申

神奈川

七月十八日附ヲ以独逸公使ノ了立及ニ付去已
年正月ノノ尚年七月十八日迄ノ尚港係入費
高口沃々廉書ヲ以テ進奏招申ノ誠ニ取所知
以テ別紙調書申上ノ事細々知
以テ承知ノ事成テ以候所族均申ノ事也

第拾五册

庚午八月四日

校了
別紙

己巳正月八日正月止計の各事外の用金は辨志

金八百六十五百四拾五兩永知百六拾五兩下

一 錢 五千貫文

洋銀部百四子知百七粒部持八粒五七ト

各所計の各事外の用金は辨志
辨志部百四子知百七粒部持八粒五七ト
洋銀部百四子知百七粒部持八粒五七ト
人候限等法入費

庚午四月八日七月十六日迄計の各事外の用金は辨志

三金六万九千八百八粒部永知百四粒五七ト

金九八万知百五粒部持八粒五七ト

一 錢 五千貫文

洋銀部百四子知百七粒部持八粒五七ト

各所計の各事外の用金は辨志
辨志部百四子知百七粒部持八粒五七ト
洋銀部百四子知百七粒部持八粒五七ト
人候限等法入費

3-2186

0335

校印

庚午八月十日於英公使館寺内於芳吉補

英公使館ハリスルを接記す同

片の巻を交ぬる成り哉

子口出返事下なる改め昨日大井民部大補

吉井五郎の補ら同命委細法話及知由也

横濱の法話とフランドル同命委細の事

乞ふ之は法話の校印

第拾六册

大井吉井支氏も横濱の法話と交りたる

同不也法話の事は法話の法話と法話と出

帆イテポー船を舟に掛りてロラニル

死後家族を同命委細の法話と

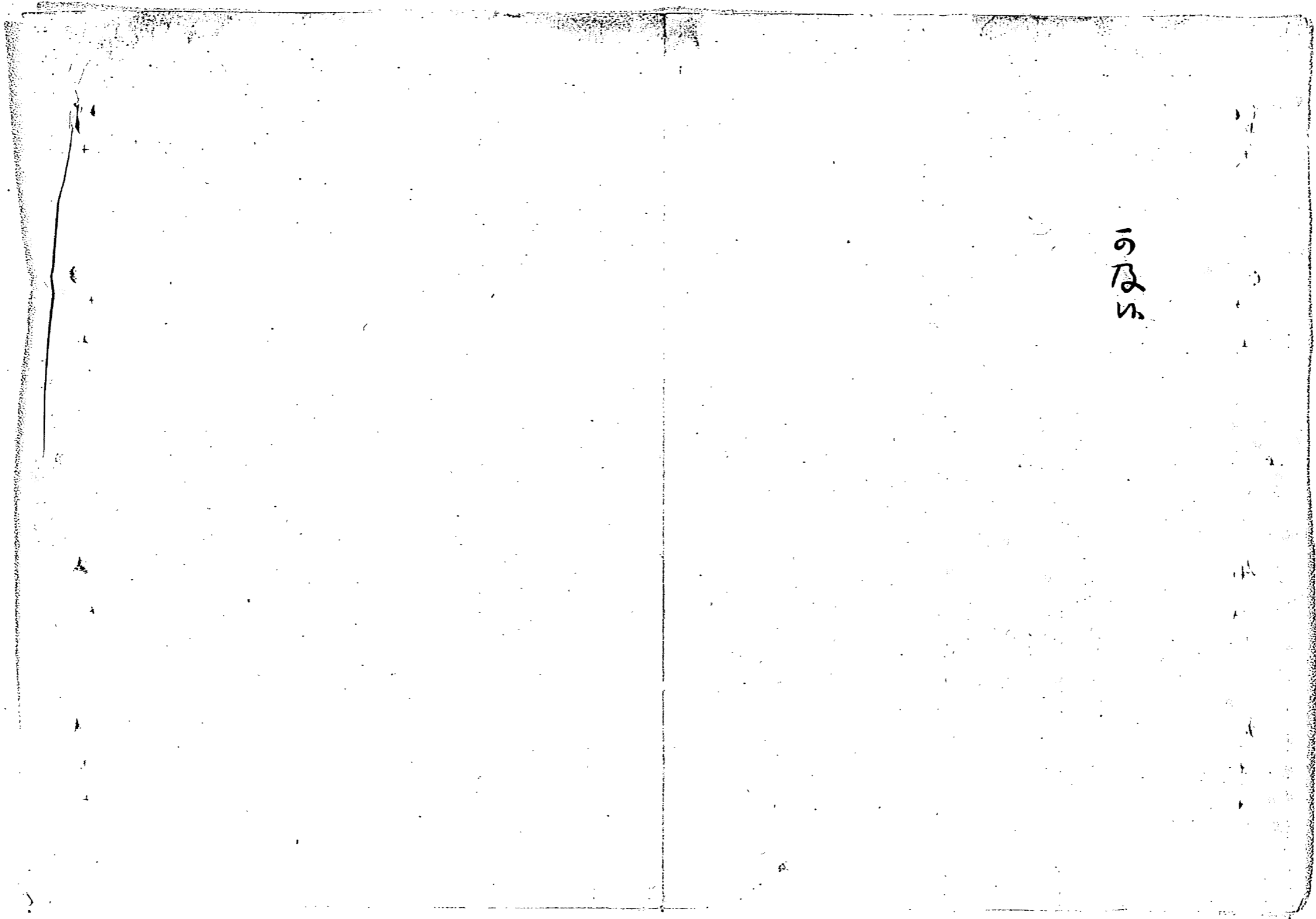
法話

法話の法話と法話と法話と法話と

法話の法話と法話と法話と法話と

此原書は横濱新
埋之地并に法話
後件上巻を法中
編りし

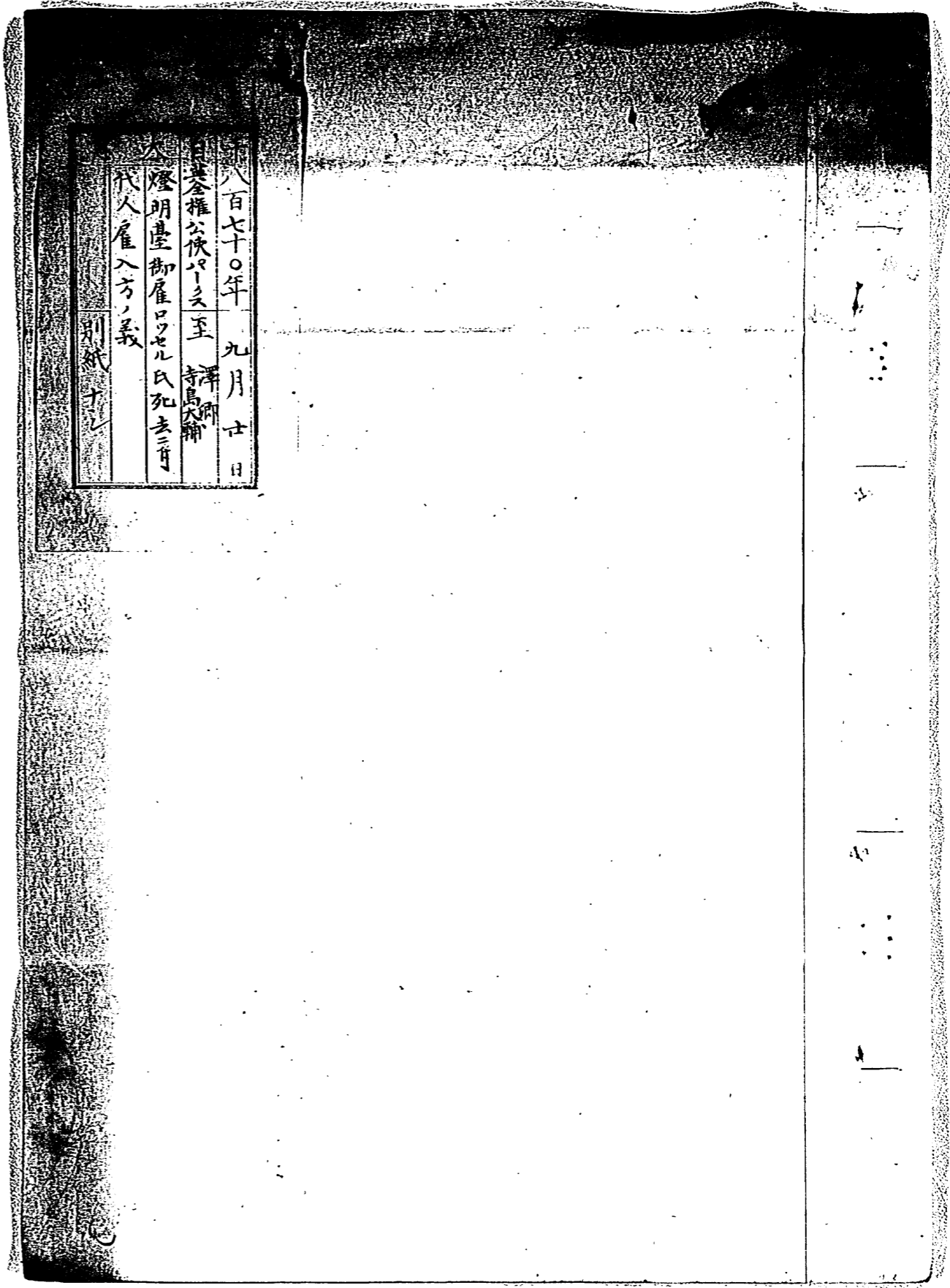
編者附言



一の
及
の

3-2186

0337



八百七十年 九月 廿日
 自基権公侯バクニ至 澤野 寺島六輔
 燈明臺御雇口ツセル 氏死去三并
 代人雇入方ノ義
 別紙ナシ

3-2186

0338

on the same terms as those ———
concluded with the men already
chosen by Her Majesty's Government
on the request of Higashi Kuzo,
Minister for Foreign Affairs, as
communicated to the undersigned
on the 13th of November 1867.

The urgent necessity of the
services of a third mechanic has
been very fully explained in a
statement drawn up by Mr
Brunton, which he has already
placed in the hands of the
Japanese Government.

The undersigned requests
their

Their Excellencies to furnish him
with a note expressing their
concurrence and that of the
Ministry of the Interior in the
above arrangement.

The undersigned avails himself
of this opportunity of renewing
to their Excellencies the assurance
of his distinguished consideration.

Harry Parkes

Her Britannic Majesty's Envoy
Extraordinary & Minister Plenipotentiary
in Japan.

Yedo,

September 20, 1870

The Undersigned having considered with Their Excellencies and the Minister of the Interior the necessity of supplying the place of the man Russell, one of the skilled mechanics in the Light House service, who died in August last have now agreed that the Undersigned shall request Her Majesty's Government to select and send out a man without delay and to engage him on

Their Excellencies

Sawa Ju san i Kiyowara Noriyoshi
Terashima Ju shi i Fujiwara Munenori
Se Se Se

六月廿四日

九月廿四日

二年英公使

外交書簡

寫濟

以手紙送付上ノ傳ノ才ノ月死云云

三補

只云ん代ノ初者ノ職人云ノ燈燈者ノ備入

大五

言ノ我抄者閣下及公民社郷ノ勤勞ノ上

少五

在代ノ之ノ撰奉ノ事ノ運送ノ事且子ノ百平

七年六月十日ノ外國者知事東ノ世中解ノ

抄者ノ此れ有リ英國政府ノ既ノ人撰ノ

類註

之の考トシテ各語を故ノ約定ノ面日録ノ撰者

ノ備号ノ紙抄者ノ一英國政府ノ教也

ノ事ノ約後抄ノ事ニ等ノ職人實ニ此等

ノ事モ改メ日印政府ノ其職人ノ百トシ

氏生得ノ出向ノ判例ノ者ノ一職人閣下

及公民社郷其文は同意ノ事也其言ハ

中紙云ノ事始メ年ノ事有リ抄者此等

千七百七十一年

九月廿六日

英使

ハルリーパークス

澤 三任清原宗加
寺崎 三任清原宗加
閣下

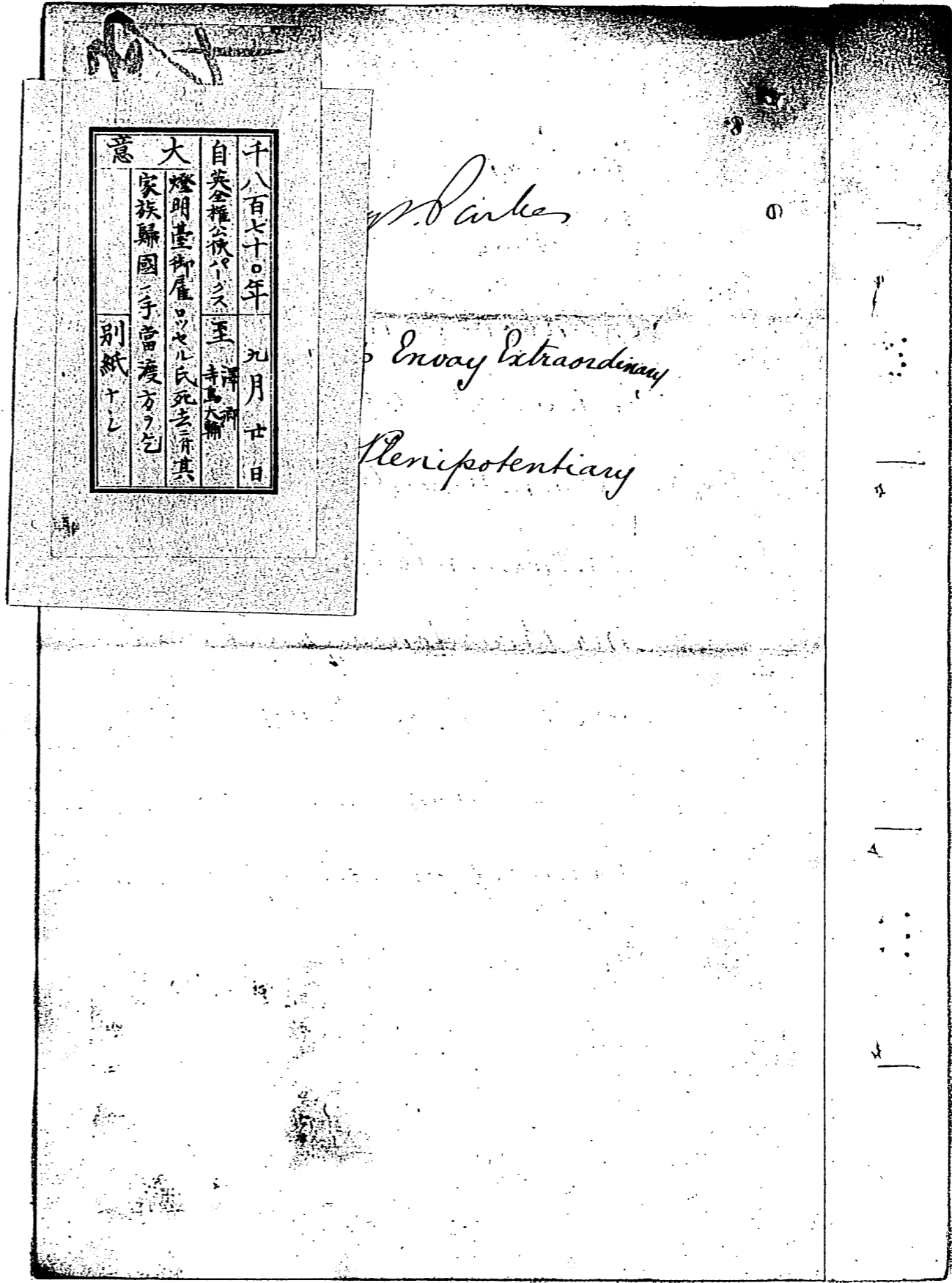
大英欽命駐劄日本公使大臣
第五號
五月十四日

Haugh Parker

*Her Majesty's Envoy Extraordinary
and Minister Plenipotentiary*

3-2186

0343



十八百七十。年 九月廿日
 自英全權公使バリス王 拜大輔
 大燈明堂御座ヨシキル氏死去并其
 家族歸國ニ手當渡方ヲ乞
 意 別紙ナシ

W. Parker
 Envoy Extraordinary
 Plenipotentiary

3-2186

0344

Agreement, it has further been arranged that Mrs. Russell shall receive her late husband's pay for the current month of September and in addition a grant of two months pay in consideration of the good services of her late husband and the afflicting circumstances in which she is placed.

The Undersigned requests
Their Excellencies to communicate
their

their concurrence and that of the Ministers of the Interior to the above arrangement and to pay the above sum of \$1150 eleven hundred and fifty dollars into the hands of Mr Brunton subject to the order of the Undersigned.

The Undersigned avails himself of this opportunity to renew to their Excellencies the assurance of his distinguished consideration,

Interior that the following
money shall be paid to
the wife of Russell by the
Japanese Government.

Passage of Mrs Russell	Dollars
to England 2 nd class	325
Do. of her three children	325
Estimated cost of travel from port of disembarkation to their residence	50

Total Cost of Passage \$ 700.

And, with reference to
the Provision for compensation
referred to in the above mentioned
Agreement

and shall also make him
such further compensation
as Her Majesty's Minister
in Japan may consider
just.

A similar rule should
naturally be observed in the
case of the death of any of
these men, and it has now
accordingly been agreed
between the Undersigned
and the Ministers for
Foreign Affairs and the
Interior

severally named Russell,
Wallace, and Mitchell, were
sent out early last year.
Unfortunately the first of
these died last August. Mr.
Brunton reports that he was
a very skilful mechanic
and had performed his duties
to Mr. Brunton's entire satisfaction.
He leaves a wife and three
children.

The Agreement made
between the Japanese Government
and

and these Artizans provides
that if anyone of them is
compelled by ill health to
quit the service of the Japanese
Government and to return to
England then the Government
shall provide him and his
wife and family with a
second class passage to
England and shall pay
all travelling expenses from
the port of embarkation to
the man's place of residence
and

Jedo,
September

On the 13th of November
Hisashi Kuzo Chiyo then
Minister for Foreign Affairs
requested the Undersigned
to procure through Her Majesty's
Government for the Light
service of Japan three skilled
Mechanics or Artizans as
accordingly three men,

Their Excellencies

Sawa Susani Kijowara Koriyoshi,

Terashima Sushii Fujiwara Munenori

&c ————— &c ————— &c

寫濟

以手我級君上之傳之也昔辛酉年才十一
月之二十日頃外國者知事來申申中傳の英國
燈明者も亦也者一職人三人英國國書
一も也給へ備方多し其後之も一も也
ウルリス及分ミドセル一人此年一も也
此後之も一も也

才六月死去以事一人其後之も一も也
人其也トレ氏其也一も也
致一も也
日知此後之も一も也
才一月病室之も一も也
兼之也
侯其也

つら海老島は日中貿易英國公使の要由と
し物に手當り賜はるに載有しし細事亦若
昔の内政書録に之を記す右の録に
ハ好も英國政府より口及ル書きたる金子
ハ向てある物者外務卿及び民部卿と
約せし

日及の書英國近二等船賃三百五十元

ハ船三人ノ船賃 三百五十元

上陸ノ際ノ一ノ船中 五十元
船費、凡接り

通計 七百元

船約定面に記載有しし手前、後者より日及
ルの書が吏吏五月より月給外に日及の物
おしく且其書難難し故令其二十月の月
給に賜事と有極し極る周下及び民部

前より存続の由を報告し、報告書よりなる
且抄者下命通る百字元フリスと印
此後より、抄録一紙あり、其の旨を以て

以上

英國公使

シルバリーパークス

千七百七年
九月廿五日
我八月廿五日

澤 從三位清原宗嘉 閣下
寺の從四位為原宗則

七〇

七〇

七〇

七〇

此及...
 昔...
 重...
 別紙...
 四...
 外務省

為...
 華...
 予...
 本...
 三...
 若...
 今...
 予...

外務省
大東洋

事務
事務
事務

此の如き... 事務... 別紙... 事務...

外務省

事務... 事務... 事務... 事務... 事務...

事務

庚午二月廿七

印務省

吉野之臣乃輔也

大木民和輔也

子我乃為其日

其乃為其日

外務省

0355

3-2186

本年の夏

印

吉井 氏
吉井 氏
吉井 氏

吉井 氏

3-2186

0356

廿七

外務省
大木民毅大輔
吉井民毅大輔

燈明堂は備口セル像病死年為子其持費
外之半當より二月分留五拾元也
至當之趣英公使より書翰并は有
は見返之報亦也銀金公より是程中
英公使より持者より回條中より其持費
七百兩外三月除料四百五拾兩
通計千五百五拾兩
已今日中持費表より其持費
此取及日報也

民部省

康平八月廿七日

明治二十三年

五月

五月廿七日

①

大橋

大橋

大橋

少佐

西曆五月九日在... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

及二月... (vertical text)

... (vertical text)

外務省

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

午ノ...

二 三年...

馬濟

類...

氏部者...	外務省
...	
...	
...	
...	
...	
...	
外務省	

...

3-2186

0359

別紙

英國公使へ返翰案

千八百七十年第九月廿日附法書翰落手紙を
於明島建築之為相備候三等職人之儀に付
法來示之款發承候旨備刀在儀之書に須
要之事と被為之間民部有へ相候切に在書
同意之款に付、付添以は同旋之義所希
申付候旨回答可得旨に是は申付以上

外務大帥

寺島四左衛門藤原宗則

外務卿

澤後三左衛門宣嘉

年月日

官省様

寫濟

外 大正 九月 四日 大正 九月 四日

中國海峽新嘉坡...

...

...

...

...

...

國民部首

...

...

...

...

庚午

九月四日

...

外務部首

...

